

医薬品化学B (Medicinal Chemistry B)					担当教員
					教授 赤路 健一
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
薬学専門教育(講義)	4年次 前期	講義	1.5単位	必修	

【概要】

具体的な開発例をもとに、薬物と生体との相互作用解析に基づく合理的医薬品開発（創薬）について学習する。

【授業の一般目標】

医薬品の作用を生体分子の機能や化学構造と関連づけて分子レベルで理解するため、構造活性相関に基づいたドラッグデザインや医薬品と生体とのかわりについて習得する。すでに第2世代、第3世代の医薬品が開発されている古典的な薬物の開発例とともに、最近の方法論に基づく新しい創薬の例についても学習する。

【準備学習(予習・復習)】

有機化学、医薬品化学Aの内容をもとに講義を行うのでこれらの科目の復習をしておくこと。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	医薬品の創製	赤路	古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。	C17-(2)-①-1 C6-(2)-①-2
2	創薬科学：標的となる生体分子	赤路	医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。	C17-(2)-②-1 C17-(2)-④-3 C6-(2)-①-1
3	創薬科学：標的となる生体分子	赤路	医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。生物学的等価性の意義について概説できる。	C17-(2)-②-2 C17-(2)-④-1,2 C6-(2)-③-3
4	β受容体遮断薬	赤路	カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6-(2)-④-1
5	β受容体遮断薬	赤路	カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6-(2)-④-1,2
6	局所抗炎症薬と鎮痛薬	赤路	ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。医薬品として複素環化合物が汎用される根拠を説明できる。	C6-(2)-④-3 C6-(2)-②-1
7	ヒスタミン受容体拮抗薬降圧薬	赤路	ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6-(2)-④-5
8	降圧薬	赤路	ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6-(2)-④-5 C6-(2)-③-3
9	高脂血症治療薬	赤路	生体分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。	C6-(2)-③-1
10	糖尿病治療薬	赤路	ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6-(2)-④-5 C6-(2)-③-3
11	抗菌薬	赤路	βラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。	C6-(2)-⑤-3
12	抗ウイルス薬	赤路	核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6-(2)-④-4
13	抗がん薬	赤路	アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。	C6-(2)-⑤-1
14	抗がん薬	赤路	インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。	C6-(2)-⑤-2
15	総括・まとめ			

(書名)
教科書 ベーシック創薬化学
参考書 薬と生体の相互作用

(著者・編者)
赤路・林・津田
赤路健一

(発行所)
化学同人
京都廣川書店

【成績評価方法・基準】

定期試験（100％）の成績により評価する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

質問は講義終了後、講義室または研究室（創薬科学フロンティア研究センター 3 階）で受け付けます。研究室に来られる場合はできるだけあらかじめメールで連絡してください。